

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「一人ひとりの花を咲かせよう！ そしてともに輝こう！」をキャッチフレーズに、  
児童生徒一人ひとりが日々輝き、卒業後にいきいきと社会生活を送ることができるよう、  
以下の学校づくりを行う。

- 1 知的障がい教育の理論と実践の積み重ねに裏付けられた専門性の高い教育を行う学校
- 2 保護者や地域の人たちとともに児童生徒の一つひとつの成長を喜び合う学校
- 3 教職員がいきいきと働く学校
- 4 地域の小中学校等が自立して支援教育を推進することをサポートする学校

## 2 中期的目標

## 1 知的障がい教育の専門性向上

〈学校教育自己診断の保護者評価「指導方針に共感」R7:85%以上 [R2:87%、R3:87%、R4:83%]〉

キャッチフレーズ：「寝屋川支援プライド ～誇りをもって～」

- (1) 卒業後の自立に向けた生徒一人ひとりに応じた教育を実践する（自閉スペクトラム症の特性に応じた指導・支援を含む）
  - ア 正確なアセスメントを行う
  - イ 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う
  - ウ 児童生徒の達成感・自己肯定感を育成する
  - エ シラバスを活用する
  - オ 小中学部からのキャリア教育を推進する
- (2) 卒業後を見据えた進路指導を充実させる
  - ア コース制での学習の充実
  - イ 卒業後の社会参加と自立を見据えた効果的な進路指導
  - ウ 生徒の職業観を養い主体的な進路選択につなげる
- (3) 時代にマッチした教育理論を構築する
  - ア カリキュラム・マネジメントを充実させる
  - イ 教科横断的な教育課程を編成する
  - ウ 主体的・対話的で深い学びを充実させる
  - エ 特別の教科道徳を推進する
  - オ ICTを活用した取組みを推進する
  - カ 防災に努める
  - キ 人権感覚を育む
- (4) 次世代教員を育成する
  - ア 人権感覚を高める
  - イ メンターを育成する
  - ウ 強い組織を再構築する

## 2 保護者・地域・関係機関との連携

〈学校教育自己診断の保護者評価肯定的評価（全体平均）R7:85%以上 [R2:85%、R3:84% R4:78%]〉

キャッチフレーズ：「分かり合い ともに子どもを 育てよう！」

- (1) 保護者との連携を深める
  - ア ICTを活用した連携を進める
  - イ 保護者が悩みを専門医に相談できる機会を作る
- (2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する
  - ア あいさつ運動を展開する
  - イ 自主単独通学生徒を増やす
  - ウ 民間委託された給食室との連携を図る
  - エ 寝屋川公園に作品展示を行う
- (3) わかりやすい最新の情報発信を行う

## 3 働き方改革 〈学校教育自己診断の教職員肯定的評価「業務の効率化・平準化」R7:55% [R3新設:51%R4:45%]〉

キャッチフレーズ：「魅力ある授業づくりは教職員の健康から！」

- (1) 同僚性の高い職場づくりを行う
  - ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる
  - イ 定時退庁できる雰囲気づくりを行う
- (2) 業務の効率化・平準化を行う
  - ア デジタル化を推進する
  - イ PC内の構造化と仕事の見える化を行う
  - ウ 物品・環境の管理・整理方法を見直す
  - エ 個人情報処理業務を削減する
- (3) 業務推進体制を再構築する
  - ア 首席を学校経営の要として配置する
  - イ 指導教諭の円滑な全校指導体制を構築する
  - ウ 新しい校務分掌体制を整理する
  - エ 学校経営計画を共有する
  - オ 授業と学校行事の連動性を高める

## 4 地域支援 〈地域のスキルアップのため、各校への訪問相談について、各市の教育委員会と協同で実施 100%〉

キャッチフレーズ：「地域の自立をサポート！」

- (1) 地域との連携強化を図る
  - ア 地域のスキルアップを図る
  - イ 研修講師の派遣を行う
- (2) 学校全体で地域支援を行う

## 府立寝屋川支援学校（高等部）

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 5年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p><b>1 結果の概要</b> 保護者対象のアンケートでは、今年度は15項目で実施した。（1項目削減、1項目文言の変更）。回収率については昨年度の82%に比べると31ポイント減少した。回答結果については、肯定的意見が90%以上の項目が4項目あった（昨年度と同様）。なお、保護者全体の「肯定的評価」の全体平均は、78.63%である（-0.62ポイント）。</p> <p>教員対象のアンケートでは、今年度20項目で実施した。（4項目削減）回収率は、全体としては85.3%と昨年度より-12.7ポイントとなっている。回答結果については、教職員全体の「肯定的評価」の全体平均は、72.5%（-2.5ポイント）であった。</p> <p>回収率減少（特に保護者）の原因としては、昨年度までは本校が導入しているメッセージ配信システムアンケート機能を使用していたが、今年度よりフォーム作成ツールを使用して行ったためであることが考えられる。次年度は回収率を上げられるよう、周知に努めたい。</p> <p><b>2結果と分析</b> <b>&lt;保護者肯定的評価 90%以上の項目&gt;</b> 「授業参観や、学校行事で学校の様子を知ることができる。（94.6%）」 「運動会、学習発表会や校外学習、宿泊学習、修学旅行などの学校行事は、子どもたちが参加しやすいよう工夫されている。（91%）」 「ホームページや緊急連絡システム（メール配信サービス）を通して、情報をわかりやすく発信している。（90.4%）」</p> <p>●新型コロナ禍も落ち着き、参観や行事など、学校での子どもたちの様子を見てもらう機会があることや、学部懇談会・給食懇談会・通学バス懇談会等の学校の取組みを伝える機会もあり、学校での様子を知ってもらうことができていることがうかがえる。</p> <p>学校からの連絡については、プリント配付での連絡を削減し、メール配信サービスを活用して情報の発信を行うことで紙の削減にもつながり、個人端末でいつでも情報を確認、検索することができ、情報へのアクセスがしやすくなっていると考えられる。今後もICTを活用しながら、学校での様子等についてわかりやすく情報発信していきたい。</p> <p>一方で、「色々な授業をもっとみてみたい」「いろんな教科の子どもたちの様子を知られる機会を増やしてほしい」などの意見もあった。今後も、学校の様々な場面での、子どもたちの様子を知ってもらえるよう、参観時の教科設定の工夫や、個人懇談時に写真や動画で学校での様子をお伝えするなど、学校での子どもたちの様子を知ってもらえるよう、検討したい。</p> <p><b>&lt;保護者肯定的評価 70%以下の項目&gt;</b> 「子どもの将来の進路や職業などについて、発達段階や実態に応じて、適切な指導や助言を行っている。（63.5%）」 「いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。（53.4%）」 「地域とのつながりや交流の機会を設定している。（58.4%）」 「学校は1人1台端末を効果的に活用している。（42.7%）」</p> <p>●上記4つの項目に関しては、「わからない」の回答率が高くなっている状況である。それぞれについて様々な取組みを行っているが、見えづらい内容であるため、ホームページや学年だよりや校長室だより等の各種通信で情報発信に努めたい。</p> <p>昨年度新設した「1人1台端末について」は、肯定的評価は低いものの、昨年度と比較すると8ポイント増となっている。本年度より、小学部5年生以上の児童生徒については個人とタブレット端末を紐づけ、個別に合わせて端末を最適化することや、児童生徒全員にアカウントを作成し、長期休み中に、休みの期間に経験したことなどを学習支援クラウドサービスに投稿する取り組み等により、タブレット端末活用について理解が深まっていると感じている。</p> <p><b>&lt;保護者と教職員の回答比較&gt;</b> 教職員回答では「適正な進路選択について肯定的評価 90%」「ICT 機器の授業等での活用について肯定的評価 95%」と保護者の肯定的評価が低いものについてポイントが高い結果となっている。このことから、上記のとおり、情報発信の重要性が窺える結果となっている。</p> <p>また、「分かりやすい情報発信：保護者肯定的評価 90.4%」となっているにもかかわらず、教職員肯定的評価が高い内容について、保護者評価が低いことから、情報発信における内容をいかに吟味するかが大切であるということがわかる。</p>	<p><b>【第1回 7月6日】</b></p> <p>●各学部からの報告 ・学部紹介の内容から、各部共に縦割りがテーマとなっていることが見て取れた。集団の編成はどのようにしていくのがよいのか。縦割りの連携を充実させて進めていってほしい。 ・保護者として、中学部・高等部とどのように成長していくかとても不安だが、今回の学部紹介を見せていただき、見通しを持って安心した。</p> <p>●学部間交流 ・学部を越えて教職員が連携することで学校が一体化していく。学部間の交流で先々が見えて、成長に刺激がある。今後も続けてほしい。 ・学部を越えての交流を行うことで他の学部のことが分かり、子どもたちも保護者と同じようにも見通しを追って安心して取組みを進めていけるのではないかと考える。 ・小学部の児童が「早く高等部に行きたい」と言っているとの話が聞けてとてもよかった。</p> <p>●進路について キャリア教育プログラムを保護者と共有するとより現実的で具体的な中身になるので良い。ライフキャリアと併せて検討していくことが大切である。高等部から中学部、小学部へつなげていけると良い。</p> <p>●働き方改革 ・仕事が偏ってしまうことは否めない。仕事ができる人に仕事が集まっていくので、SOSを出すように自校でも伝えている。それぞれが体を大事にしてほしい。 ・3（1）ア・イのキャッチフレーズについて、なかなかここまで打ち出せないが、これくらいいらないといけないかと思う。 ・業務効率化・平準化のなかで、令和4年度はペーパーレスが推進されているが、令和5年度はペーパーレス化の記載は無くなっていたので、校内では推進されているからかと思う。</p> <p>●学校経営計画 ・初めて「キャッチフレーズ」が出された時は衝撃的であった。内容も年を超えるごとによくなってきている。 ・先生方の意見を吸い上げて、学校経営を行えていることは素晴らしいと思う。ただ非常に広がりやすくなるので、ポイントが大切になる。</p> <p><b>【第2回 11月9日】</b></p> <p>●防犯訓練について ・本校では、警察の方に来ていただく形はしていないので、参考にさせていただきたい。ただ、児童生徒に恐怖心や学校に対する不安感につながるのを気をつけなければならない。不審者侵入があった時の合言葉を決めるなど、その都度見直しを凶っている。マニュアルについては、不審者が何を持っているかわからないので、臨機応変に考えていかなければならない。 ・保育園の防犯訓練も園児に見せないように避難させてから行っている。非常ベルだけでもパニックになる園児もいるが、方法も含めて考えていかなければならない。女性の先生もいるので、防犯グッズも扱いやすいものなども揃えてもらえたら嬉しい。 ・訓練をしてもマニュアル通りにいかない場合が多い。不審者等対応については、年齢期によっても変わってくると思うが、子どもたちはまず逃げることを優先してもいいのではと思う。事件が起きてからでは遅いので、ヒヤリハットのところで防げるようにしていってほしい。児童生徒については、遊びも入れつつではあるが、しっかり指導も入れて行ってみたいかどうか。</p> <p>●進路について ・障がいをもたれている方の人材雇用や中学部からの実習も受け入れている企業がある。機会があれば活用も可能。</p> <p>●授業研究 ・指導案の作成や新任者やミドルリーダー向けの授業研究の書籍もある。授業観察シートも授業構成要素やチームティーチングの要素も取り入れながら進めていってほしい。 ・わかることが児童生徒の居場所作りにつながる、主体的・対話的な学びも大事にしていきたい。しかし、働き方改革や教職員の心身の健康の充実との兼ね合いもある。 ・働き方改革と教育の質の関係性はバランスが難しい。授業見学で専門性を高めるのは、いいことである。限られた時間の中で、どうしたらいいのかの方法を考えることができれば。</p> <p>●自立活動 ・支援教育の市教科研究会で、寝屋川支援学校の小学部の首席から自立活動について助言をいただき、とても有意義な研究会だったという意見があった。今後も、支援学校と地域の小学校とで連携を図り、支援教育について理解を深めていければと思っている。 ・教科の中に自立活動を取り入れる時には、6区分27項目をベースに取り入れれないといけない。地域の小学校においては、それが取り入れらつつあるところであるので、支援学校から地域の小学校に広げていってもらえたら。</p> <p>●全体を通して ・これまでの積み上げがしっかりあるので、これからも積み上げを増やしていき、寝屋川支援学校オリジナルの教育を作っていってほしい。 ・寝屋川支援学校は、緻密でいろんな課題を吸い上げている。学校協議会についても密に取り組まれているように感じる。この経営計画を基にこのまま進めていただけたら。</p> <p><b>【第3回 2月15日】</b></p> <p>●地域連携 ・地域交流に関しては、センター的役割を深めていかなければならない。放デイ、地域と学校の連携強化が必須。交流の位置づけをどうしていくのか。</p> <p>●学校教育自己診断 ・事業所自己評価の実施義務があり、園でも決められた項目について保護者、職員へアンケートをとっている。寝屋川支援学校は項目の内容・数が整理されており、アンケートとしては答えやすいと感じた。</p> <p>●ICT活用 ・タブレット活用について、先生たちは活用しているのだろうけど、保護者にそれがなかなか伝わらない。休業中の様子を投稿し始めて2年、投稿数や投稿者が固定されつつあり、伸びがないのはなぜか。 ・個人情報はどう管理していくのか。システムに詳しい教職員が不在になったらどうするか。デジタルに頼り過ぎると、大事なことを見落としている可能性もあるのではと考える。 ・研修会の実施が必要。活用しきれていない場面がある。活用できるための研修を。情報管理への怖さを減らす。情報に強い教職員から校内でどう広げるか。 ・それぞれの支援学校のカラーや強みがあると思うが、寝屋川支援学校では、それがICTの活用ではないかと考えている。ICTの中には、教職員の情報管理も含まれる。熊本大学教育学部付属特別支援学校の例のように、情報、カリキュラム・マネジメント等の部署が情報を発信していくことも可能ではないか。</p>

## 府立寝屋川支援学校（高等部）

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標 （推進部署）	具体的な取組計画・内容 （太文字下線部分はキャッチフレーズ）	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 知的障がい教育の専門性向上	(1) 卒業後の自立に向けた生徒一人ひとりに応じた教育を実践する（自閉スペクトラム症の特性に応じた指導・支援を含む） ア 正確なアセスメントを行う 〈高等部・支援研究部・進路指導部〉 イ 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う 〈支援研究部〉 ウ 児童生徒の達成感・自己肯定感を育成する 〈支援研究部〉  〈高等部・支援研究部〉 エ シラバスを活用する 〈教務部〉 オ 小中学部からのキャリア教育を推進する 〈高等部・生活指導部〉	(1) ア <b>明日を拓くキャリア教育プログラム！ 進路への道標！</b> ・「キャリア教育プログラム」によるアセスメントを行い、希望する進路に向けて身に着きたい能力を保護者と共通の指標とする。 イ <b>コミュニケーションを上げよう！</b> ・PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）の導入を拡大し活用する。  <b>子どもの言葉に耳を傾けよう！</b> ・児童生徒の発達段階に応じたコミュニケーションツールを用い、子どもの言葉や考えを聞き取る双方向の指導を進める。 ウ <b>わかる・できる・ほめる！</b> ・「観察シート」を活用した授業づくり、自立活動についての研究協議や学び合いの場の促進を図る。  <b>授業に全集中！</b> ・生徒が授業に集中できるように掲示板や机の上に物を置かない等、教室の環境整備に努める。 ・自立活動やその他の教材を整理し、いつでも使用可能にする。 エ <b>寝屋川シラバスで12年間つなげます！</b> ・シラバスを活用した学習の定着状況の確認するため、1学期終了後、計画に問題点がないか教員にアンケートを実施。問題点があれば修正して次年度につなげる。 オ <b>～絆～小中高みんな仲間！</b> ・学校行事ごとに児童・生徒会が同じ目標をもって活動できるようスローガンを作成する。  <b>そうだ、先輩に聞こう！</b> ・小中学部と自立活動や職業の授業等で交流を行い、一緒に活動を行う中で共に学ぶ機会を設ける。	(1) ア ・保護者と達成状況を1回以上確認 ・実習評価で得られた情報はキャリア教育プログラムの項目にも反映。 イ ・全校で PECS の研修を実施すると共に、PECS を活用している施設見学を実施し、全校的な活用を進める。ワークショップ受講人数昨年度比 1.3 倍 ・自立活動時に、言葉や絵カード、サイン等で意思表示ができたか確認。 ウ ・学校教育自己診断の保護者評価 「一人ひとりに応じた教育」70%[66%] 「学校に対する意識に関するもの」80%[77%] ・授業研究及び協議への参加、全員1回以上。 ・授業参観又は授業動画視聴を全員1回以上。 ・学期毎に教室環境の確認。 ・自立活動の教材の貸し出し回数が30回以上。 エ ・R6年度に向けた運用シラバス（年間計画）の作成。 オ ・昼の放送や掲示板を活用し、児童生徒会の役員がスローガンを全校に発表する。 ・各取組みにて、先輩の姿を見た後輩から「あなりたい」との感想を得る。 ・年間に4回以上、学部間で交流する。	・10月懇談で各担任と保護者で達成状況の確認済。(○) ・懇談前に実習評価も含めてアセスメント内容の確認・修正を実施。(○) ・今年度ワークショップ6名受講し、昨年度比1.4倍となる。12月末に2箇所の施設見学と合同研修実施し、行動支援の幅が広がってきている。(○) ・自立活動時に、自発的な意思表示を継続的に確認済(○)  「一人ひとりに応じた教育」67%(△) 「学校に対する意識に関するもの」82%(○) ・10年経験者研究授業及び協議を実施、校務等により参加できないこともあった。(○) ・公開授業として授業動画視聴の機会を多く設定した。また夏季休業中に指導案作成の研修を実施。(○) ・必要なもの以外は視覚に入らないよう整理した。(○) ・自立活動の教材について、年度当初に整理し各学年に分配済。支援室で管理する物品の貸し出し回数は6回(△)。 ・次年度年間計画作成済み。活用しながら見直し進めていく。(○)
	(2) 卒業後を見据えた進路指導を充実させる ア コース制での学習の充実 〈高等部・進路指導部〉 イ 卒業後の社会参加と自立を見据えた効果的な進路指導 〈高等部・進路指導部〉 ウ 生徒の職業観を養い主体的な進路選択につなげる。 〈高等部・支援部・進路指導部〉	(2) ア <b>小さなスキルアップの積み重ね ～卒業後を見据えて、一回り成長していく自分！</b> ・産業現場との連携や外部講師の招へいによる実践的、専門的な学習を行う。 ・コースごとに生徒の実態に応じた系統的な清掃学習を導入し、校内校外で実習に取組む。 イ <b>HOP STEP JOB! ～ここから、始まる～</b> ・生徒自身による主体的な進路決定に繋げるため、2年次の体験実習の回数を1回増やす。 ・高等部全学年で販売週間「職業バザールウィーク」を新設し、2月に実施する。  ・保護者が進路を考える上で必要な情報が得られるよう、8月までに情報発信の強化を行う。 ウ <b>ブラッシュアップ！職業教育！</b> ・夏季休業中に講師による研修を実施し、教員の職業教育スキルアップ、授業・教材を充実させる。	(2) ア ・各学年で職場見学や外部講師による授業を年1回以上実施。 ・各学年で年10回以上実施。 イ ・2年次の体験実習を2回企画、実施。 ・「職業バザールウィーク」の企画、実施。 ・事業所紹介冊子、進路だよりの情報をリニューアルし発行する。 ウ ・講師による研修を夏期休業中に1回以上実施。	・外部講師による出前授業は各学年で2回実施した（弁護士、司法書士）。(◎) ・清掃学習については、授業や校内実習の時間を活用して、各学年10回以上実施。(○) イ 〈高等部・進路指導部〉 ・2年次の体験実習1回目7月、2回目11月に実施済。企業体験実習2月～実施予定。(◎) ・2月5日～9日の期間に1年生1回2～3年生2回実施済。(○) ・事業所紹介冊子の製本を外部委託し業務のスリム化、冊子の洗練化を実現。進路だより1学期に発行。(○) ・校内の専門教員による職業教育スキルアップ研修（窯業・レザークラフト・木工・清掃）を夏季休業中に実施済。(○)
	(3) 時代にマッチした教育理論を構築す	(3)	(3)	

## 府立寝屋川支援学校（高等部）

<p>る</p> <p>ア カリキュラム・マネジメントを充実させる 〈教務部・担当首席〉</p> <p>イ 教科横断的な教育課程を編成する 〈教務部〉</p> <p>ウ 主体的・対話的で深い学びを充実させる 〈支援研究部〉</p> <p>エ 特別の教科 道徳を推進する 〈指導教諭〉</p> <p>オ ICT を活用した取組みを推進する 〈GIGAPT〉</p> <p>カ 防災に努める 〈生活指導部・担当首席〉</p> <p>キ 人権感覚を育む 〈高等部・生活指導部〉</p> <p>(4) 次世代教職員を育成する</p> <p>ア 人権感覚を高める 〈管理職〉</p> <p>イ メンターを育成する 〈指導教諭〉</p> <p>ウ 強い組織を再構築する 〈管理職〉</p>	<p>ア <u>「カリ・マネ」ってなにかね？</u> <u>～はじめの大1歩！～</u> ・カリキュラム・マネジメントの考え方を研修や通信を通して周知し、教職員それぞれが「カリ・マネ」を意識し、全校的な運営を行う。</p> <p>イ <u>「行事」「授業」つなげます！</u> ・行事・授業・事前学習等の内容を見直し、教科横断的な教育課程・授業を設定する。</p> <p>ウ <u>めざせ！「主体的・対話的で深い学び」</u> ・指導教諭が授業に入り込み指導を行い、主体的・対話的で深い学びの視点がある指導案の作成と研究授業を実施。（10年経験者）</p> <p>エ <u>道徳教育を豊かに！</u> ・知的障がい特別支援学校の道徳科指導案や教材を収集して研究する。</p> <p>オ <u>これが自分のタブレット！</u> ・児童生徒の実態に応じた、1人1台端末活用を促進するため、生徒に1人1台を紐づけて活用する。 ・端末の各種アプリケーション活用のための配備を行う。</p> <p><u>やってみよう！クラスルーム</u> ・学齢や発達段階に応じてストリーム投稿に係る操作・手順について授業に位置付ける。</p> <p>カ <u>防犯はもう常識！防災はもう日常！</u> ・BCP（事業継続計画）を活用した防災研修・防災訓練を行うと共に、防犯研修も行う。</p> <p>キ <u>「知ろう 学ぼう 人権知識！」</u> ・情報モラルについては全学年実施し、ICT機器を通じたコミュニケーション指導を行う。</p> <p>(4)</p> <p>ア <u>磨こう人権感覚！ほかほかと温かい心！</u> ・年度当初は職員会議等で、注意喚起を行い、2学期に不祥事防止に向けたワークシート集を活用するなど、体罰、不適切な指導等の防止に努める。</p> <p>イ <u>チーム力を発揮した授業づくり！</u> ・初任者は初任研で学びを深め、指導教員はメンティーとして、指導教諭3者によるチームでの授業研究を実施する。 ・年度初めに3者で、役割・目標・スケジュールを確認し、年間計画を作成。 ・指導案作成、研究授業、事前・事後授業等を3者で協議しながら進める。</p> <p>ウ <u>世代・経験に応じた活躍の場！</u> ・経験年数の少ない教員は新しい学びにチャ</p>	<p>ア ・カリ・マネ通信の発行。（学期1回） ・1学期中に研修の実施。（学期1回）</p> <p>イ ・教務部内に係を設け、教科横断的な教育課程を作成する。</p> <p>ウ ・10年経験者による研究授業の実施。</p> <p>エ ・道徳科の授業実践に係る「教材」「指導案」等について共有する。</p> <p>オ 学校教育自己診断の保護者評価 「1人1台端末の活用」50%[38%] ・児童生徒が端末を効果的に活用する授業づくりのための研修年1回。 ・端末活用をリードする学習グループの実践共有。</p> <p>・ストリーム投稿に係る授業を全学年実施する。</p> <p>・長期休暇時の家庭・学校間のストリーム投稿の実施。</p> <p>カ ・実際の災害時を想定した避難訓練実施。年2回 (地震1回、火災2回、Jアラート1回含む)</p> <p>・避難訓練前に事前指導を行うと共に、希望する学級で備蓄食の食事体験を実施。 ・寝屋川警察署の方を招いて校内防犯訓練及びさすまた指導の実施。 ・不審者対応、防犯マニュアル改訂の実施</p> <p>・学校安全の構築を目的とした、防犯研修への参加。</p> <p>キ 各学年、学期1回以上人権学習を実施</p> <p>(4)</p> <p>ア ・体罰・不適切な指導を起こさせないための人権研修を年1回実施。</p> <p>・学校教育の自己診断の保護者評価 「人権尊重の姿勢」90%以上[85%] ・学校教育の自己診断の教職員評価 「人権尊重の姿勢」90%以上[85%]</p> <p>イ ・教育実習生、初任者の指導のための、「指導案作成」「授業づくり」の全校研修実施。年1回</p> <p>・教育実習生の指導教員の相談役として指導教諭を位置付ける。</p> <p>ウ ・学校教育自己診断教職員評価</p>	<p>・学期に1回以上発行。（○） ・1学期は実施できなかったが、2学期に2回、3学期に1回実施。（○） カリ・マネについての理解が深まり、意識した運営が進んでいる。 ・小学部1年～高等部3年までの行事一覧を作成。教科との関連を意識し系統立てた授業を進めている。（○） ・10年経験者研究授業において、主体的・対話的で深い学びの視点を持った指導案の作成・校内共有を。また授業づくり・協議の際に実践を共有できた。（○） ・道徳科に関連する絵本を購入。授業づくりの素材として全学年で共有した。（○） 「1人1台端末の活用」44%（△） ・活用実践報告会で実践を共有した。（○） ・端末の配備と5年生以上の児童生徒への紐づけが完了。児童生徒による学習ツールとしての活用が進む。（○） ・複数の学年でストリーム投稿を題材とした授業を実施。発達段階に応じた授業実践ができた。（○） ・家庭からのストリーム投稿活動を全校で実施。長期休業中も児童生徒と繋がることのできた。（○） ・目標回数の実施ができた。（○） 火災訓練の出火場所は知らせず当日の緊急放送を聞いて、安全な避難ルートを考え避難した。地震訓練は火災も想定し、出火場所と避難ルート確認にトランシーバーを活用。また、ヘルメットを児童生徒に着用させた。 ・保管期限を迎える備蓄食を希望する学年で防災教育として活用した。（○） ・担当がさすまた講習会へ参加し、生活指導部内で伝達講習を行った。（○） ・不審者対応訓練を実施し、寝屋川警察から講話をいただき、本校の不審者対応の再確認・マニュアルの改訂を行った。（○） ・担当が大阪府防犯教室講習会に参加し、付属池田小校長の講話や大阪府警の講話を聞き、本校における不審者対応や防犯マニュアル改訂に反映させた。（○） 次年度も継続して危機管理意識の向上に取り組む。 ・7月に外部講師を招いて情報モラル講習を行い、情報モラルの大切さや危険性について学習を実施した。人権学習として高1は平和学習、高2は拉致問題、高3は同和問題に取り組み、視聴覚資料をもとに問題について自ら考え、人権意識を高められるよう取り組んだ。（○） 次年度も本年と同様の人権学習を行う予定である。 ・全体に対して実施済。職員会議等でも適宜周知。</p> <p>・夏季休業中に実施。職員会議等でも適宜周知している。継続して人権尊重に努めていく。（○） 「人権尊重の姿勢」80%（△） 「人権尊重の姿勢」82%（△）</p> <p>・全校へ研修を実施した。（○） ・全体研修に併せ、指導教諭による指導教員への個別の助言を実施。（○） ・短時間の協議を重ねることで授業づくりの研究が進んだ。（○） ・指導教諭が学部を越えて助言することで、学校全体の授業研究の機運が高まった。</p>
--	--	---	---

## 府立寝屋川支援学校（高等部）

		レンジ、ミドル教員は学校をけん引、ベテラン教員は専門性の継承に、それぞれが努める。	「次世代教職員の育成」75%〔70%〕 「学校経営への参画」55%〔49%〕 「教職員での話し合い」77%〔72%〕	「次世代教職員の育成」45%（△） 「学校経営への参画」24%（△） 「教職員での話し合い」39%（△） ・分掌組織を大きく改変、カリキュラム・マネジメントの専門家を招聘し研修を行う等の新しい取組みを進めたため戸惑いがあったのではないかと推測する。継続実施していくことで、理解を促していきたい（△）
2 保護者・地域・関係機関との連携	<p>(1) 保護者との連携を深める ア ICT を活用した連携を進める 〈GIGAPT・担当首席〉</p> <p>イ 保護者が悩みを専門医に相談できる機会を作る 〈保健室〉</p> <p>(2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する ア あいさつ運動を展開する 〈生活指導部〉</p> <p>イ 自主単独通学生徒を増やす 〈高等部・生活指導部〉</p> <p>ウ 民間委託された給食室との連携を図る 〈健康教育部〉</p> <p>エ 寝屋川公園に作品展示を行う。 〈管理職〉</p> <p>(3) わかりやすい最新の情報発信を行う 〈情報教育部〉</p>	<p>(1)</p> <p>ア <b>ICTの活用で、もっとつながる家庭と学校!</b> ・ストリーム投稿等、ICT活用の理解推進とルールの周知を行い、新1年生のパスワードソフト及び学習支援クラウドサービスの運用を行う。</p> <p><b>写真もWebの時代!</b> ・写真販売をWebで行い、保護者の生活時間の確保、円滑な連携を図る。</p> <p>イ <b>ようこそ相談室へ!</b> ・小児発達・精神科の専門医に保護者をはじめ、だれでも気軽に相談できる場を設定するため、eメッセージで保護者に周知。</p> <p>(2)</p> <p>ア <b>愛さつ運動で通じる心、つながる気持ち!</b> ・挨拶推進月間を通して挨拶の習慣づけを行い、朝の散歩等で地域の人への積極的な挨拶により、互いの理解を深める。</p> <p>イ <b>身につけよう応用力!</b> ・保護者と連携し、自主単独通学を通して社会的自立に向けた生活力・応用力を育てる。</p> <p>ウ <b>開かれた給食室!</b> ・民間委託となる調理員に児童生徒がインタビューする等、給食について知る機会を設定する。</p> <p>エ <b>作品展示を通じた地域との繋がり強化!</b> ・寝屋川公園内「森の展示室」に出展し、地域の方々と作品を通じた交流を行う。</p> <p>(3) <b>学校のこと、伝えます!</b> ・ホームページを活用した、最新の情報発信に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・クラウドサービスの安全性と活用の理解のための通信作成及び説明会を1学期に実施。</p> <p>・写真販売システムの導入。</p> <p>イ ・学期に2回以上の実施。</p> <p>(2)</p> <p>ア ・挨拶推進月間の実施。各学期1回</p> <p>・年間を通しての挨拶運動実施。</p> <p>イ ・社会的自立に向けた目標設定と振り返りを前期・後期に実施。</p> <p>ウ ・児童生徒によるインタビュー。年1回</p> <p>・給食についての動画の作成。</p> <p>エ 年間2回以上の出展。</p> <p>(3) ・定期更新とメンテナンス50回以上。</p>	<p>・新1年生へのアカウント配付が1学期中に完了。全校のクラスルーム投稿が実施できた。(○)</p> <p>・長期休みのクラスルーム投稿の実施要項に、クラスルームの安全性に関わる内容を記載し配付した。説明会は未実施。(△)</p> <p>・Web上で写真販売を実施。保護者からは概ね好評評価をいただいている。(○)</p> <p>・年間で9回実施予定。毎回相談希望者を募集し3名程度の相談を受けている。(○)</p> <p>・計画では推進月間を実施であったが、生徒と共に検討し毎日実施となった(◎)</p> <p>・児童生徒会役員が、登下校時に毎日率先して挨拶運動を行った。挨拶のプラカードや旗などを使い、視覚的な支援を行いながら挨拶運動を実施した。(○)</p> <p>・ルールやマナーを守る目標に向けて、定期的に指導を行い、安定した通学に繋がった。(○)</p> <p>・それぞれの学部代表による、調理員さんへのインタビューを実施。(○)</p> <p>・「カレーが作られるまで」の動画を制作。(○)</p> <p>・2つを合わせて、1月の全校集会日に各クラスでビデオ視聴を実施した。</p> <p>・各部毎に年3回の出展を行った。校長室だよりでもその旨を伝え、好評を得ている。(◎)</p> <p>・定期的にホームページ更新とメンテナンスを実施している。年間60回以上になる見通し。(◎)</p>
3 働き方改革	<p>(1) 同僚性の高い職場づくりを行う ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる 〈管理職〉</p> <p>イ 定時退庁できる雰囲気づくりを行う 〈管理職〉</p> <p>(2) 業務の効率化・平準化を行う ア デジタル化を推進する 〈情報教育部・教務部〉</p>	<p>(1)</p> <p>ア <b>1に健康 2に生活 34がなくて 5に仕事!</b> ・働き方改革を推進し、ワーク・ライフ・バランスを向上させる。</p> <p>イ <b>あっ!定時や!か~えろっと!</b> ・会議日程や書面開催等を検討すると共に、管理職も早く退勤し、教職員が退勤しやすい職場づくりを行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア <b>I(いつも) C(ちょっと) T(トライ) できるICT活用!</b> ・指導者のICT活用能力を高めると共に、適切な機器管理を進め、独自システムの持続的・効率的な運用と体制づくりを行う。</p> <p><b>乗るしかない!このビッグウェーブ!</b> ・ICT活用を更に促進し、「教材BANK」「できるもん活用(授業アイデア集)」の活用を促進させる。 <b>教材もアイデアもリユースがスタンダード!</b> ・作成した「教材BANK」「授業できるもん」を活用し、教材作成の時間を短縮する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・ストレスチェックの総合健康リスクを今年度より下回る。〔105〕</p> <p>イ ・時間外勤務実績R4年度比10%削減。〔R4 4月~12月実績 27,800H〕</p> <p>(2)</p> <p>ア ・活用スキルの段階別研修実施1回以上。</p> <p>・備品管理台帳の作成と管理。</p> <p>・システム運用のための人材育成研修1回以上。</p> <p>・「教材BANK」「できるもん活用」の全教科作成。</p> <p>・年度末にフォーム作成ツールで確認。活用率50%以上</p>	<p>・ストレスチェック総合健康リスク107(△) 受検率が昨年度より低いため、精度が低い。次年度は受検率を高める方策を実施予定。</p> <p>・R5実績 26.926H -3.14% R3実績年間実績-4.91%で、2年間で-2784H、-7.16%減少。 30時間以上の超過時間がほぼなくなり、20時間以下が増加している業務の平準化が進んだとも考えられる(△)</p> <p>・ICT研修を1回実施ニーズに応じた7つの分科会を用意した。(○)</p> <p>・台帳が完成し、備品を管理している。(○)</p> <p>・グループウェアの勉強会『管理者画面のレクチャー』を担当者が受講した。(○)</p> <p>・保存用フォルダは完成済み。既存の教材を当該のドライブに移行中。(△)</p> <p>・活用に関する調査結果43%(△)</p>

## 府立寝屋川支援学校（高等部）

	<p>イ PC内の構造化と仕事の見える化を行う〈担当首席〉</p> <p>ウ 物品・環境の管理・整理方法を見直す〈教育環境部〉</p> <p>エ 個人情報処理業務を削減する〈管理職〉</p> <p>(3) 業務推進体制を再構築する</p> <p>ア 首席を学校経営の要として配置する〈管理職〉</p> <p>イ 指導教諭の円滑な全校指導体制を構築する〈管理職〉</p> <p>ウ 新しい校務分掌体制を整理する〈管理職・教務部〉</p> <p>エ 学校経営計画を共有する〈管理職〉</p> <p>オ 授業と学校行事の連動性を高める〈高等部・健康教育部〉</p>	<p>イ <b>仕事サクサク・効率アップ!</b> ・構造化したPCの活用を進めるため、セキュリティモードとインターネットモードの活用方法を明確にする。</p> <p>ウ <b>ひと・もの大切に!</b> ・備品、教材等の管理と整理を行う。 <u>むり・ムラ・無駄ない安心安全な学校!</u>  ・校内安全点検を実施し、教育環境を整える。</p> <p>エ <b>溶解にして、他の仕事しようかい!</b> ・年度末個人情報処理を、シュレッダーから溶解に変更し、業務軽減を図る。</p> <p>(3)</p> <p>ア <b>強化します! 首席間連携・教頭との連携</b> ・総括首席を指名すると共に、首席を教頭補佐として連携を更に強化する。</p> <p>イ <b>全校見守る指導教諭!</b> ・指導教諭が学部を超えて、教員の授業力向上を図る。</p> <p>ウ <b>変わるらしいで〜</b> <u>(知らんけど!とは言うてられへんで)</u> ・分掌改編に合わせて役割を具体化し、次年度へ引き継ぐシステムの整理。</p> <p>エ <b>みんなで見よう! 学校経営計画</b> ・校内に拡大した学校経営計画を掲示し、目標の実現に向け教職員で共有する。</p> <p>オ <b>競技中心、準備の少ない運動会へ!</b> ・マスの時間を短縮し、充実した運動会の企画を行う。</p>	<p>イ ・セキュリティモードとインターネットモードのデータ移行が完了する。</p> <p>ウ ・各部の職員室ロッカー、教材倉庫の整理整頓の実施。(各学期1回)</p> <p>エ ・溶解処理の計画・実施を行う。</p> <p>(3)</p> <p>ア ・総括首席を指名する。  ・首席を教頭補佐とする。</p> <p>イ ・指導教諭が全校の初任者・10年経歴者・指導教諭の指導にあたる。</p> <p>ウ ・学校教育自己診断の教職員評価「業務の効率化・平準化」60%以上〔58%〕</p> <p>エ 校内に拡大した学校経営計画を掲示する。</p> <p>オ ・マスのゲームを10分以内で実施。 ・運動会実施後教員向けアンケートの「昨年度と比較した負担感」で肯定的評価60%以上。</p>	<p>・セキュリティモードとインターネットモードのデータを分類整理し、データの移行を完了。校内の組織図をもとにPCのフォルダの構成を改編した。(○)</p> <p>・4月と8月に備品倉庫の整理整頓、備品の確認を行った。職員ロッカーについては年度初めだけでなく、職員が入れ替わる度に確認を行っている。(○)</p> <p>・毎月末に安全点検を行い、危険箇所や補修が必要とされる箇所の確認、補修依頼を行っている。(○)</p> <p>・校内で大規模な工事が行われ産業廃棄物を処理したため、学校管理費の委託料が当初の想定以上に必要となり、書類の溶解処理のための予算の確保が困難な状況となる。(△)</p> <p>・総括首席指名済み、首席を取りまとめている。(○)</p> <p>・教頭横に首席の座席を設け、連携を図っている。(○)</p> <p>・初任者・指導教諭・指導教諭で連携しながら研究授業の一連の研究に取り組み、短時間の協議を重ねながら授業づくりを進めている。教育実習の指導教諭に、指導案作成等についての助言を実施。(◎)</p> <p>・「業務の効率化・平準化」24% (△) 次年度に向け、新たな方策を検討中。</p> <p>・校長室前に拡大した学校経営計画を掲示した。(○)</p> <p>・入退場を省略し、競技中心の運動会を実施することで実施時間の短縮ができた。運動会実施後教員アンケートでも時間短縮についてはおおむね良好な意見が多かった。(○)</p>
4 地域支援	<p>(1) 地域との連携強化を図る</p> <p>ア 地域のスキルアップを図る〈支援研究部、LS、指導教諭〉</p> <p>イ 研修講師の派遣を行う〈支援研究部、LS、指導教諭〉</p> <p>(2) 学校全体で地域支援を行う〈支援研究部、LS、指導教諭〉</p>	<p>(1)</p> <p>ア <b>Power of connect (連携強化)</b> ・各市の教育委員会との連携を図り、訪問相談をより充実させると共に、地域のコーディネーターのスキルアップを図る。</p> <p>イ <b>夢中になれる学びの場!</b> ・市教育委員会・学校園からの要請を受け、研修講師の派遣を行う。</p> <p>(2) <b>Co development (コーディネーター育成)</b> ・登録相談員制度に教職員全員が登録し、一緒に訪問に行くことで、次世代のリーディングスタッフとコーディネーターの育成に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・「訪問相談・来校アンケート」の北河内地域の肯定的評価を上げる。</p> <p>イ ・すべての要請に対応する。今年度の実績〔支援回数57回(訪問・来室・電話相談、研修講師)〕</p> <p>(2) ・LS以外の教員との訪問相談3回以上。</p>	<p>・大東市・寝屋川市ともにCO研修の研修講師を実施。大東市は合わせて通級指導研修も年間4回実施予定。</p> <p>・全ての要請に対応した。42件(○)</p> <p>・LS以外の教員と訪問相談を2回実施した。(△)</p>